

2024.05.23. 木曜礼拝 レビ記にある宝物 ヨム・キプール（贖罪の日）

レビ記16章

Mac 牧師

一緒に主の御前に来て祈りませんか？ 天のお父様、おお、主よ、私たちの信仰は、礼拝の中でどう明らかにされるでしょうか。私たちが礼拝し、あなたに近づくとき、あなたというお方を思い出させてくださいますか？ 私たちが共に集うとき単に毎週木曜日や日曜日にするのではなく、私たちが得る全てで、すべてあなたのために礼拝できますように。主よ、今晚の教えを祝福してください。これからもマック牧師と共にいて導いてください。レイトゥ牧師も同様に。彼らがここに上がって、あなたの御言葉を届ける時に。私たちはそれを受け入れます。イエスの御名によって、これらのことをお願いします。アーメン、アーメン。

主を褒め称えます。ありがとうございます。ご着席ください。では、こんばんは、ご家族の皆さん。主を褒め称えます。J.D.ファラグ牧師に代わって、カルバリー・カネオへによろこそ。木曜の夜のライブ配信礼拝へ、オンラインで参加の方も歓迎します。今日来てくださった方々、よろこそ。あなたがカルバリー・カネオへの聖徒から受ける交わりと愛によって祝福されることを祈ります。来月6月4日午後7時から、ここ礼拝堂（聖域）での祈り会について、皆さんにお知らせしたいと思います。来られるなら、信者の体として共に祈ることができるようお願いいたします。日が経つごとに、もっと祈りが必要になってくるからです。皆さん、「祈り後の霊的準備は出来た」と言うあの（はやり）言葉を言いたがるのは知っています。（会衆の一人：それだよ。）（一笑）彼らは、「厄介なこと」を言っています。それこそ彼らがしていること。いや、霊的準備すべて出来たなんてことはありません。いいですか？ こんにちは、この世で起こっていることのために、私たちはできる限り主と交わる必要があります。ですから、もし来れるなら、そうしてください。でも、来れないなら、どこにいても、祈る時間を取ってください。それも月に1度だけではありません。つまり、祈りは絶え間ないもので、私たちがそれを実践していることを祈ります。理解してください、教会よ。祈らない誰かさんみただけ？ 私は言っているだけです。主に今夜の見通しをお願いしています。誰がそうなのかは、学びが終わってからお知らせします。じゃあ、今夜の学びを始める前に祈りましょう。一緒をお願いします。おお、天のお父様、主よ、あなたが力強い神であることを感謝します。今夜、私たちは謙虚な心であなたのもとに来て、私たちの前を力強く進んでくださり、あなたの御力のパワーで御言葉を教えてくださいお願いします。そうすれば私たちは、この暗く倒錯した世界に生きながら、あなたの御言葉をよりよく守る者となり、主よ、私たちがより輝けますように。あなたの真理の御言葉があるからです。あなただけがお出来になるように、それを私たちにもたらしってください。私たちがそれを聞き、それを心に留め、それによってより良くなりますように。救世主イエシュア・イエスの力強い御名によって祈ります。アーメン。

主を褒め称えます。OK。では今夜は、私が「レビ記」ミニシリーズと呼ぶセッション4をします。そして今夜の「レビ記」の宝物は、おもに16章からです。サブタイトルは、『ヨム・キプール（贖罪の日）』です。この書から得られる題材の中で、この題材が最も重要です。本書のハイライトで、そしてもちろん、私たちが日々の歩みの中で使える青写真を提供しています。イエスが私たちの救いのために示してくださる驚くべき愛と同様に、私たち全員が、神に対してどのように心を傾けて近づけばいいのか、新たな視点を与えてくれるはずです。その全てがここにあります。そして、イエスという視点から見る旧約聖書のすべての章のうち、これは、すべてのクリスチャンが最も学ぶべきものだと思います。この祝祭の背後にある意味と、それにつながるラッパの祝祭は、神の神聖な驚異の素晴らしい働きとしか言いようがありません。なぜなら神は素晴らしいからです。そして、ほとんどの人が知っているように、ヨム・キプールは、イスラエル国家にとって最も神聖な日です。しかし、単なる聖なる日ではありません。なぜなら、そこに至るまでの経緯が、その時間全体を最も神聖にしているからです。実際、この日は最も聖なる日として知られています。特にこの学びで、私たちの神がいかに聖なるお方であるかに心を向けるよう、最善を尽くすことを祈ります。私たちの神がどれほど愛に溢れているかということと同様に。神の神聖さは、神の愛し方にあり、その全てが伴っています。神は、人間の注意を引くため、多大な尽力を払って来られました。すごい長い間。私たちはこのことについても考える必要があります。神に対して罪を犯したのは人間でした。しかし、神は、私たちの罪が完全に取り除かれる方法を確立されました。神は、全人類がはっきりと分かるような方法でそうしておら

れます。私たちの魂の救いは、思いつく事のうちに、最も恵み深く、思慮深く、愛に満ちた、最も驚くべきことなのです。ですから、このことを心に留めましょう。今夜、主が私たちのためにご用意されているものを見ていながら。また、私たちが理解できるよう、イスラエルの子ら、この最も神聖な時にどのように臨むべきかについてを、どう教えられていたのか、その基調を整えたいと思います。なぜなら、すべての祝祭の中で、喪に服し、断食して臨まなければならなかったのはこの祝祭だけだったからです。皆さんついてきていますか？ 他のすべての祝祭日には、祝祭的テーマがありましたが、ヨム・キブールはありません。違います。実際、彼らは魂を悩ませて来るように言われました。おそらく、その前年に犯したすべての罪を通して。それを反省する。だから、彼らは嘆き悲しみ、断食しました。さっき簡単に触れたように、この最も神聖な日の前には、「畏敬の日」と呼ばれる日がありました。それを聞いてください。『畏敬の日々』それはロシュ・ハシャナから始まりました。これはユダヤ人が、神との関係を正すため費やす時間で、ある意味では今もそうです。彼らの家族、友人、隣人も同様に。というのも、隣人の中に友人ではない人もいたからです。そして、それらすべての日々のうち、彼らが「その日」と呼ぶこの最後の日、その日はもちろん、「贖罪の日」です。贖罪の行為、あるいは贖罪に関連するものは、まさにこの言葉の意味そのものです。ぴったりです。旧約聖書における贖罪とは、特に「汚す」「投げる」「覆う」と定義されています。ご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、これはノアの箱舟の「内と外のタールで覆うように」と言われたときに使われた言葉と同じです。そして、箱舟は、ノアの箱舟はいつか発見されると信じている人もいて、全世界への告発です。それに対してどう答えます？ ですから、この覆いは、終わることのない罪深い生活を送るがための、一時的な手段でした。この贖罪の日、それは罪を覆い隠す役割を果たすものでした。そう、イスラエル全家のための、前年に犯したすべての罪からの覆い。これは毎年、決められた時期に行われていました。それは、民が主に従う聖なる民として回復するためだと聖典に記されています。これは、その年の残りの期間、毎日行われるいけにえに加えて行われました。ですから、これは特別なイベントです。私たち大丈夫ですか？ そしてそれは、民全体の罪を覆い隠すために行われました。これを理解することが重要です。でも、それはまた、一人ひとりが神との個人的な関係を求める時でもありました。一人一人が魂を苦しめるように言われました。ついてきてますか？ これからわかるように、このプロセス全体は、神のみがお出来になる様に、神に絶対的に命じられ、定められたものです。これは人が勝手に決めたことではありません。このすべての背後にある意味は、非常に思慮深いです。このアプローチがもたらされた時、誰もが予想するような畏敬を持って行われました。しかし、今にして思えば、神がこのようなことをすべて用いて、永久に贖われる犠牲を指し示そうとされたことは間違いありません。でも、贖罪の日の現状で何が悲しいかというと、こんにち、聖書が語っていることを認識することさえできないこと。神殿がないことももちろん理由のひとつですが、それにまつわるほぼすべてのことが、ほとんど何の意味もなさないように水で薄められています。悲しいです。律法の下にないクリスチャンの私たちでさえ、贖罪の日から多くのことを学びます。しかし、それが何であったのか、そしてその目的を果たしたイエスをどう指し示すのかを見た後、私たちはタルムードそのもの、つまりユダヤの律法に基づいて、それがどうなったのかを明らかにします。もちろん聖典とともに。そして、タルムードに関して言えば、理解してください。これは、イエスをまったく信じていないユダヤ教のラビたちによって書かれたものです。しかし、神は、彼らを告発するため、彼ら自身の著書を彼らに反して用いられます。これから見ていくのは、イスラエル民族の贖罪についての準備段階です。そうすることで、主がこのすべてをどれほど真剣に受け止めておられるかがわかるはずですよ。準備はいいですか？ 神の恩恵で豊かになりましょう。「レビ記」16章、全部で12節ほど見ていきます。1節と2節から、神の御言葉をお読みします。

ーレビ 16：1ー

アロンの二人の息子の死後、すなわち、彼らが主の前に近づいて死んだ後、主はモーセに告げられた。

ーレビ 16：2ー

主はモーセに言われた。「あなたの兄アロンに告げよ。垂れ幕の内側の聖所、すなわち箱の上の『宥めの蓋』の前に、時をわきまえずに入ることがないようにせよ。死ぬことのないようにするためである。『宥めの蓋』の上で、わたしは雲の中に現れるからである。

ですから最初から、舞台はすでに用意されています。10章を見返すと、アロンの息子2人が死にました。なぜか？ 彼らは自分の好きなように主に近づこうとしたから。火は冒涇でした。なぜなら、彼らは火を捧げ

るよう命じられていなかったからです。皆さん、聞いてますか？ 異なる火という言葉を知ると、多くの人はそこに異なる火を入れたと思う。それで殺されたのかと。違います！ 違います！ 彼らは来る様、召されていなかったからです。以上！！ だから、彼らが持ってきたものはすべて異なりました。教会よ、分かりますか？ 神が命令を下されるのであって、誰も自分の都合で主に近づくことはできません。誰も。方法は一つしかありませんでした。そしてその方法は、大祭司を通してのみでした。大祭司は、民のための仲介者としてたった一人で神に臨まなければならない。皆さん、点と点が繋がりますか？ 大祭司は、死ぬことのないように、定められた時と定められた方法で、神の命令に従わなければならない。自分の二人の息子がすでに殺されたことで、アロンはこの命令を深刻に受け止めると私は思います。皆さんどうですか？ この状況に自分を置いてください。少し前に、あなたの子供2人が火だるまになって、今はあなたが召されている。マジな話で、あなたがそこに入るよう召されている。あなたには命令がある。従いますか？ もうひとつついでに分かるのは、宥めの蓋（贖罪所）と箱舟は、2つの異なる聖なる造形物です。これは重要な注意点です。2つの異なる造形物です。それは類型論を扱うときに大きく関わります。特に血の注ぎ方に関して。ですから、このことを知りながら聖典を読み進めるとき、私たちが心に留めておくべきことがあります。人々が箱舟を見つけたと言うとき、宥めの蓋はそれとは別のものだからです。ついてきてますか？ 契約の箱と、宥めの蓋は、別の実体です。大丈夫ですか？（会衆：はい！）おお、主を褒め称えます。誰かが分かってくれました。では、3節から5節までのアロンへの指示を続けて見ましょう。御言葉をお読みします。

ーレビ 16：3ー

アロンは次のようにして聖所に入る。罪のきよめのささげ物として若い雄牛、また全焼のささげ物として雄羊を携え、

ーレビ 16：4ー

聖なる亜麻布の長服を着て、亜麻布のももひきを履き、亜麻布の飾り帯を締め、亜麻布のかぶり物をかぶる。これらが聖なる装束であり、彼はからだに水を浴びて、それらを着ける。

ーレビ 16：5ー

彼はまた、イスラエルの会衆から、雄やぎ二匹を罪のきよめのささげ物として、雄羊一匹を全焼のささげ物として取る。

よろしい。さて、これらの捧げ物は、最初の7章で記された他のものとは異なっていることがわかります。その理由は、先に述べたように、この日は、特別な捧げ物が主に捧げられる特別な日だからです。それはここだけにとどまりません。「民数記」29章3節を見ると、これが起こる前、大祭司たちはまず、傷のない「7頭」の子羊を捧げます。私たちは、7という数字が完成数であることを知っています。つまり、これは神の子羊が罪の赦しのための完全な贖罪となることも指し示しています。留意ください。大祭司アロンは、聖なる場所に入るべき者でした。私たちはこのことをはっきりと理解していますね？ 他の息子たちでもなく、他の誰でもなく、モーセでさえもない。これが分かりますか？ 繰り返しますが、殺された息子たちでそれを理解する必要があります。彼らは主の臨在によって焼き尽くされた。神に近づくには、ちゃんとした方法がありました。こんにち、神に近づくには、ちゃんとした方法があります。できるなら、簡単な言葉で説明します。私たちが他の人々を導くとき、このことを心に留められるよう祈ります。そして、そのシンプルな言葉はこうです。自分自身で神に近づこうとする者は、誰でも滅ぼされる。皆さん分かりますか？ そして、神を信じない者は、すでに滅ぼされています。私たちに代わって執り成す大祭司がいなければなりません。私たちに大祭司がいますね。たったお一人だけ。その大祭司とはイエスです。繰り返しますが、これがナダブとアビブが焼き尽くされ、そして、自分達で主に近づこうとする人たちがそうなる根本的な理由です。イエスがいなければ、あなたは何もできません。つまり、これは、すべての人が恵みの御座に正しく近づくための唯一の方法を指し示すために、その秩序を確立する方法でした。あなたにイエスがいけない。私たちがこれを理解するのを祈ります。ここで、次のことにも注目しましょう。アロンは罪の捧げ物として、若い雄牛の血を、また燔祭の捧げ物として雄羊の血を携えて来なければならない。彼は自分の大祭司の衣は着ていません。それが分かりましたか？ 全身白の亜麻布で覆う。水を浴びてから、それを着ねばならない。主に仕える前の清めについて話しましたね。覚えてますか？ 今日の箇所ここで、

再びそれが分かります。しかし、大祭司という外見上の地位は完全に剥奪されています。今や、彼は民衆に似せるため一般的なものにされた。点と点がつながり始めましたか？ 言い換えれば、自分自身と他のすべての人の贖いをするため、彼の名誉あるステータスは取り除かれた。それはイエスがなされたことでは？ イエスは天界、名誉の場所を離れられた。庶民となり、すべての人の贖罪を行うために。でも、どうでしょう？ アロンはまだ終わっていません。彼は罪の捧げ物のために2頭の山羊を取らねばならない。これはデカイです。実際、ここで多めの時間を取ります。そして、一頭の雄羊を全焼の捧げ物として捧げる。すべて、私たちはこう分かります。主に何らかの形で捧げられる5つの別々の捧げ物があること。そして、「5」という数字が恵みの数であることを知っています。それが正に、イスラエル国家に当てはまることです。もちろん、こんにち、私たちには豊かな恵みがあります。これを考えてみましょう。彼らが神に捧げようとしていたすべてのもの。神はすでに所有されていました。そう思いませんか？ 彼らが神に捧げていたものはすべて、すでに神のものでした。これが神について示すのは、神が人に何かを与えるとき、それは神の本心であるということです。皆さん理解していますか？ また神だけがこれをお出来になります。これほど慈悲深く、真実であるのは神だけです。唯一です。私たちには常にこういう性質があります。何かを与えて、それについて考える。おお、さあ。ほら。こないだ誰かを乗せたばかりじゃない。ガソリン代が必要なことを分かってくれればいいんだけど……。でしょ？ でも、それができるのは神だけです。なぜなら神だから。それが事の真実です。私たちはこのことを忘れてはなりません。主が、私たちの罪を忘れ、もう思い出さないと仰る時本気でそういう事です。私たちは覚えています。どれほど私たちは同じことを何度も何度も持ち出しています？ 10年前のことを「主よ、お許してください。」何のこと？ 私たちは神をもっと理解する必要があります。そうすれば、過去に囚われることなく、よりよく神に仕えられます。これから、6節から10節までを読んで、この二匹の山羊にまつわる特別な罪の捧げ物を理解しましょう。そして、さっきの5つのそれぞれの概要を説明します。では行きます。御言葉をお読みします。

ーレビ 16：6ー

アロンは、自分のための罪のきよめのささげ物である雄牛を献げ、自分と自分の家族のために宥めを行う。

ーレビ 16：7ー

雄やぎ二匹を取り、それを主の前、会見の天幕の入り口に立たせ、

ーレビ 16：8ー

雄やぎ二匹のためにアロンがくじを引く。一つのかじは主のため、一つのかじはアザゼルのためである。

ーレビ 16：9ー

アロンは主のためのくじに当たった雄やぎを連れて来て、それを罪のきよめのささげ物とする。

ーレビ 16：10ー

アザゼルのためのくじに当たった雄やぎは、主の前に生きてままで立たせる。これは、その上で宥めを行い、荒野のアザゼルのもとへ追いやるためである。

よ～し！！ 私たちには解き明かさねばならないことがたくさんあります。私たちは、聖霊の力によってそれをしていきましょう。それではまず、各捧げ物について説明します。先ほど話した聖書のこの部分には書かれていない2つの捧げ物も含め、全部で5つの捧げ物です。アロンは、自分と自分の家族のための罪の捧げ物として一頭の若い雄牛を取りました。そして、その家族にはレビ族全体が含まれる可能性がありますよ。自分のために雄羊を全焼の捧げものにし、民のために雄羊を全焼の捧げものにしました。つまり、今、合計5つのうちの、3つです。でしょ？ OK。もう2つは、やぎです。特別な罪の（きよめの）捧げ物のための1匹と、同様にもう1匹は罪の（きよめの）捧げ物で合計5つですが、違う方法です。全部で5つ。わかりますか？ OK。とは言え、私たちに必要なのは、このすべてを視覚化すること。少なくとも、私の助けになります。私たちにとって祝福になると思います。そうすることで、神の御言葉の深さが見えてくるはずだからです。聖書全体を通してこれを使えます。ちなみに、「聞く耳と見る目は、二つとも主が造られ

た。」(箴言 20:12)

ですね? 例えば、これらの捧げ物の性質上、アロンは実際に二度、至聖所に入らねばなりません。聞いていますか? いけにえの条件を満たすためには、この日、アロンは至聖所に二度入らねばなりません。思い出してください。アロン自身とその家のために、その雄牛は(罪のきよめの)捧げ物でした。覚えてますか? その雄牛が屠られ、その血は至聖所の中に持ち込まれ、その血は振りまかれました。これは後々の教えとします。また触れますが、全ての詳細を説明する時間がありません。ですから、主が仰ったことを選ばねばなりませんでした。それが今晚学ぶことです。アロンは雄牛の血を取って中に入り、自分と家族のために贖罪をし、そしてまた出て来ます。でしょ? そして、やぎを取り、至聖所に戻らねばなりません。アロンは2度往復しました。なぜ何度もその話をするのか? それは大きなプレッシャーだったはず。細部に至るまで正確に従わねばならなかったから。アロンが死なないように。わかってもらえますか? あなたは行って戻って来たと思ったら、それから、もうあと1回あるんです。(苦笑)ですから、おお、、、なんてこと。おお、もう一度やれるといいけど。しかし、それをせねばなりません。アロンはこの状況について考えねばならないはず。その前に訓練していましたが、今注目するのは、アロンは2度繰り返さねばならなかったということ。アロンはすべての人の贖罪のために2度入らねばなりませんでした。私たちはこのことに留意すべきです。これが理由です。「ヘブル人への手紙」9章12節、神の御言葉を読みます。

ーヘブル 9:12ー

また、雄やぎと子牛の血によってではなく、ご自分の血(イエスについて語ります。)によって、ただ一度だけ聖所に入り、永遠の贖いを成し遂げられました。

違いが分かりますか? イエスはご自分のために贖罪する必要はあられませんでした。私たちのためにだけです。教会よ、ついてきていますか? これを見逃さないよう祈ります。これは重要です。これが、これらを頭に思い浮かべる理由で、何が本当に起こっているのか、私たちはより良い視点を持っています。私にとっては、より細部に注意を払うようになりました。聖典に至ると、神は詳細であられるからです。その裏には祝福があります。その都度、その度、神の御言葉に捕らえられる時に、「ヘブル人への手紙」のここにつながります。今、同様に私たちはそれをつなぐべきです。この2匹のやぎの特別な捧げ物に話を戻します。私たちは本当に注意を払う必要があります。再度、これは特別な罪の捧げ物で、贖罪の日のみ行われました。ですから、前回と同様、聖句に基づきこのことを全力で学びを進めましょう。それから、適宜タルムードも引用します。アロンは会見の天幕の入り口で、罪の捧げ物として両方のやぎを主に差し出します。聞いてください。神が命じられたとおりに、アロンはくじを引きます。見てください。命令です。で、なぜそれを強調するのか? 結果は、神のものであったからです。聞こえますか? OK。じゃあ、、、これを聞いて欲しいのです。いいですか? 神はくじを引くように命じられました。神はすべてをご存知です。ついて来ていますか? くじを引くという神の命令です。神は結果をご存知で、その裏には理由があります。お付き合いください。これは、こんにち、コインを投げ、すべてを運に任せることではありません。全く違います。このくじ引きは本物でした。神のもとで、そのすべての意図が全ての時に定められました。これは聖典で確認できます。「箴言」16章33節、神の御言葉を読みます。

ー箴言 16:33ー

くじは膝に投げられるが、そのすべての決定は主から来る。

これがわかりますか? すべての決定です。例外なく主からです。神が命じられればそうなのです。で、私はくじを引けとは言いません。神はおそらくあなたにくじを引けとは命じておられないからです。しかし、これは命令でした。私たちはこれを覚えておく必要があります。再度、すべてには理由がありました。私たちの神は命じられるからです。命令によって、私たちが、神が定められた「事」の背後の神が啓示された「理由」を、明確に知るようになるため。私たちがすべきことは、問題を探し出すこと。この「くじを引くこと」を整理してみましょう。再度、コインを投げたり、サイコロを振ることじゃありません。全く違います。実際、タルムードによると、これらの滑らかな札や彫刻された木材は、同じように作られ、そして、碑文の上には金属製の覆いがかけられました。つまり、ごまかしたり、ひいきはできませんでした。このやぎのためのくじに関しては、特別な箱のようなものから引かれました。このために、祭司は片方の手に1匹、

もう片方の手に1匹を持ち、2匹のやぎを向かい合わせます。想像してください。これを続けるのに助けになります。それを覚えておいてください。祭司はくじを引きます。右に1つ、左に1つ。右にやぎ1匹、左にやぎ1匹。ついてきていますか？ 私たちがそうであることを主を褒め称えます。時々、わからなくなります。さて、くじが「神のため」に当たったやぎは、罪のきよめの捧げ物として神にささげられました。くじが「アザゼルのため/（贖罪のやぎ）」に当たったやぎは、荒野に追いやられました。「アザゼルのやぎ」という言葉を、非常に大変間違っって使う人がいます。「アザゼルのやぎ」は良くありません。悪いです。ここではまったく良い条件ですらありません。犠牲となる捧げ物を扱っているにもかかわらず。神にささげられたやぎについては、他の動物と同じ方法で犠牲とされました。それは短いナイフで、動物の喉を切り裂きました。これがその方法です。正しく行えば痛みはありません。喉を切り裂くと、たちまち頭から血が流れ出し、動物は気を失うからです。全く時間はかかりませんでした。それが悪いと考えるなら、「アザゼルのやぎ」に移るまで待ってください。が、その前に、雄牛の捧げ物から流された血について話したいのです。そして、やぎの血は、アロンとその家族、その家系の罪のため、そして民のためで、その血の全ては、それが至聖所の中に入ると、「宥めの蓋」に振りまくために使われました。その前にも振りまかれました。祭壇や天幕にも使われました。私が話しているこの血で、特に重要な物は聖別されねばなりません。人だけではありません。神聖な神を考えてください。道具でさえ、血で聖別されねばなりません。それ自体が教えの題材ですが、私はただそれを示したかったのは、皆さんが強い欲求にかられ、戻り、調べることができるから。祝福されます。それでは、どこでしたっけ？ 覚えていません。アザゼルのやぎ！それが私たちが見ていること。とにかく、このような命令を見ると、「アザゼルのやぎ」の扱いについてです。「アザゼルのやぎ」に起こるであろうこと。（「レビ記」16章）21節と22節に書かれています。神の御言葉を読みます。

ーレビ 16：21ー

アロンは生きている雄やぎの頭に両手を置き、その上で、イスラエルの子らのすべての咎とすべての背き、すなわちすべての罪を告白する。これらをその雄やぎの頭の上に載せ、係りの者の手でこれを荒野に追いやる。

ーレビ 16：22ー

雄やぎは彼らのすべての咎を負って、不毛の地へ行く。その人は雄やぎを荒野に追いやる。

これが「アザゼルのやぎ（贖罪のやぎ）」に起こることです。この部分から、学びがまさに専門的になり、厳密すぎる、と言えるかもしれません。神の御言葉の中でここで伝えられていることをよりよく説明できるように。先ほど言ったように、このやぎはどちらも罪のきよめの捧げ物です。つまり、それがそのやぎたちです。最初のやぎは宿営内で血が流されました。こっこのやぎは宿営を離れて血を流すことになります。聞きましたか？ ここからが厳密です。留意ください。その「アザゼルのやぎ」は、聞いてください。イスラエルの子らのすべての罪に関するすべての咎と過ち（罪を犯すこと）を背負いました。これがわかりますか？ 少し時間を差し上げます。しばしばこれらの言葉を私たちが、同じ意味で使いたいからです。同じ意味ではありません。間違っった行いのすべてを罪という名目で置くことができます。可能です。しかし、私たちがそうすると、より広いメッセージを見逃します。それが示されています。特に、他の表現が明らかに使われている時に。ここでそのことがわかりますか？ 「贖罪の日」になると、これは非常に重要です。それが私たちが専門的に学ぶべき理由です。厳密な方法でこの問題に取り組み、神が私たちに啓示されることを見ましょう。今日の箇所に出てくる順番で、咎があります。咎。最大限の悪行を意味します。完全な咎です。これは私たちの最も邪悪な状態であるとさえ指摘する人もいます。これは、私たちの心が欺瞞に満ちて邪悪であることを語ります。誰がそれを知ることができますか？（エレミヤ 17：9参照）

これが最も深いレベルの罪です。あるいは行われる本格的な罪深い行為です。つまり、罪深い行為にはさまざまなレベルがあります。これが真実です。私たちは聖書を通してこれがわかります。すべての罪と同じように、私たちはただそれを通り過ぎます。罪は罪という言葉に耳にします。いいえ。そうではありません。小さな罪が死を引き起こします。いや、間違いありません。しかし、咎があります。小さな白い嘘の罪を超えます。（他人を傷つけない為につく些細な嘘）聖書が語っていることを言うだけです。ですから、私たちが「咎」という言葉を耳にするとき、これが主が置かれる見解です。私たちも同じ見解を持つべきです。そうすることで、他人の行動の理由を理解する助けになると信じます。神が私たちに何らかの説明の義務があ

られると言っているわけではありません。私たちは、主のなさることはすべて正しいのを知っているからです。でも、私たちは聖句から理論づけられます。過ち/罪を犯すことに進みます。これは、故意に罪を犯すこと、あるいは意図的に神の掟に反抗することを意味します。このことは聖書にも書かれています。罪を犯すことは律法に背くこと。全面的な咎ほどではないかもしれませんが、それが本当に問題ではありません。神の聖なる基準に関して言えばですね？ 問題ではありません。しかし、「アザゼルのやぎ」を理解するためには、その違いを知る必要があります。私たちはどんなことがあろうと邪悪な心と共に咎ある者として生まれます。私たちは邪悪になりがちです。しかし、ここでも重要なのは、違いがあることで、私たちはこの真実を理解する必要があります。この最後の1つは、私たちが最もよく知っていて、罪、的外れ、誤りです。私たちの墮落した本質のせいでおこること。わざとではないかもしれませんが、ただ成り行きでそうなります。墮落の副産物。私たちの歩みの中でさまざまな形で起こります。しかし、祈りは、時とともに、聖霊の御力によって、私たちが神の御力によってそれらを見抜き、捕えることができるようになること。そうすることで、私たちが罪を犯すことが少なくなります。しかし、私たちが決して罪はなくなりません。決して。これが、私たちが直面すること。私たちがそのように分類すべきではありません。「少なくとも、私は咎に満ちてないし」と。いいえ。ですから、そこにも行かなないように。論点を絞ろうとしてるんです。あなたの小さな、小さな罪は、まだ、まだ、まだ問題です。いいですか？ わかりましたか？「ちょっとしか罪を犯さないから、かなりいい。咎に満ちているわけじゃないし。」と思わないことを願います。ここであなたがそう受け取ったとしたら、あなたは間違ったメッセージを聞いています。罪の深さを指摘し、見るためです。それが私たちがわかることを祈ります。これが私たちだからです。聞いていますか？ これが私たちです。この「贖罪の日」は、前の年からのすべてを清算する日でした。「アザゼルのやぎ」に戻ります。聖典によれば、大祭司アロンによって、イスラエルの子らのすべての罪に関する咎と罪のすべてがこのやぎに移されました。健康で有能な係りの者が、このやぎを荒野に追いやり、宿営の外でひどい死に方をさせます。点と点がつながり始めていますか？この係りの者が健康でなければならなかった理由は？「贖罪の日」には、イスラエルの子らは断食をすることになっていました。ですから、この係りの者は断食して往復せねばなりません。それが理由です。タルムードでは、その「アザゼルのやぎ」の角には、緋色の紐が巻かれたと言われます。イスラエルの民の罪をすべて荒野に運び去り、二度と見ることはない象徴として。ある時、そのやぎが戻ってくるまでは。彼らの表情を想像してみてください。— (笑) —

角には緋色の紐が巻かれたままで、宿営地に戻ってきました。自分たちの罪がすべて自分たちの上に戻ってきたしるしだと考えました。でしょ？ 私なら混乱します。まず、連れて行った係りを探します。「おい、どこにやぎを連れて行ったんだ？ それほど遠くに連れて行かなかったな！」— (笑) — それが私が最初にするでしょう。しかし、彼らはこれについてあることをしました。この時点から、彼らは「アザゼルのやぎ」を荒野に追いやる方法を変えるからです。どう考えても、神によって称えられました。より大きなポイントを示すために。ですから、「アザゼルのやぎ」を荒野に追いやり歩き回らせ、生き延びさせる代わりに、今度は、その逞しい係りの者は、そのやぎを荒野に連れて行き、大変非常に高い崖の上で蹴落とししました。下に何も無い崖で、100 フィートか 200 フィート落ちて、ごつん、はいそれまで、ではありません。いえ、いえ、いえ、それは徐々にです。わかりますか？ で、係りの者は、次々に岩にぶつかって落ちていくのをずっと見張っていました。底に落ちたときには、ぐちゃぐちゃになっていました。よく考えてみてください。それは苦しい死に方です。恐ろしい。しかし、イエス・キリストが経験されたことに比べれば、それはかすみます。イエスは、私たちの咎と罪をすべて取り除くために、このことを経験されました。「アザゼルのやぎ」について、またタルムードが語るには、やぎが連れて行かれる前に、角に結ばれた緋色の紐が外され、神殿の入り口に巻かれました。このやぎが死を迎えた後、神殿の入り口の緋色の紐は雪のように白くなりました。それを考えてみてください。これらはイエスを信じない人々によって書かれたユダヤ人の書物です。この独特のささげ物について、イエスが十字架上で成し遂げられることの伏線であるのがはっきりとわかります。イエスは街の内外で血潮を流されました。イエスは、いわば天幕の中のやぎのような最低レベルの罪のために十字架にかかられたものではありません。宿営地の外のやぎが示したように、イエスはあらゆる罪のために死なれたのです。これが聖典が語ることです。「イザヤ書」53章5節、私たちがよく知っている御言葉です。神の御言葉を読みます。

—イザヤ 53:5—

しかし、彼は私たちの背きのために刺され、私たちの咎のために砕かれたのだ。彼への懲らしめが私たち

に平安をもたらし、その打ち傷のゆえに、私たちは癒やされた。

聖典の至るところに、これが書かれています。これがわかりますか？ つながることを願います。再度、これは有名な箇所です。しかし、「贖罪の日」に関するこれらの出来事を見る時、この御言葉が別の意味を持つことを祈ります。実際、十字架にかけられた時のイエスを扱うものはなんでも、神の御言葉に関しては、あらゆる可能なレンズを通して見るべきです。これがどれほどひどいことか。再度、イエスはどんな苦勞も惜しまれませんでした。私たちが近くに引き寄せるために、御言葉を通して神のご性質を表されるために。私たちがすべきことは、イエスに手を伸ばすこと。それだけです。イエスはそこにおられます。すべてのしはそこにあります。実際、タルムードによると、「神のやぎ」と「アザゼルのやぎ」のくじが引かれる時、聞いてください。イエスが十字架にかかれる前、1500年以上にわたって記録されてきました。聞いてますか？ 神のために選ばれたやぎは、いつも大祭司の右手にそのくじがありました。わかりますか？ 右手です。なぜそれがそれほど重要なのか？ 右手が意味することゆえです。誉れのあるところです。実際、私たちはこの表現を耳にします。「おい、あれが私の右腕です。」それが皆さんが言うことでしょ。ですから、彼らはそのしるしを理解し、ヤハウエが毎回自分たちに好意を寄せられていると受け止めました。しかし、イエスの死と復活の後に、紀元70年の神殿崩壊まで、それは40年近くでした。実際、ユダヤ暦では40年間、「神のやぎ」としてくじで引かれたのは常に左手にありました。イエスを信じないユダヤ教のラビたちによって書かれたタルムードです。それは何を意味するのか？ これに加えて、イエスが全人類のための真の贖いのいけにえとして捧げられた後、神殿の入り口にあった緋色の紐は再び白くなることはありませんでした。これらは、彼らの書物に見られるほんの2、3の例に過ぎませんが、最低限、こんにちでも彼らを躊躇させるはずで、言うまでもなく、神殿が破壊されて以来、この最も聖なる日に関して聖典に記されていることは何一つ行われていません。聞こえますか？ 理由はわかっていますが、ヨム・キプールがどのようなものになってしまったのか、私は大変悲しいです。これは、トーラーが不変の神の言葉であると主張するユダヤ人の兄弟姉妹のためでもあります。OK。あなた方の誰かがこれを聞くことを祈ります。救世主は来られました。会衆：アーメン！ 聖書を手にして見てください。歴史的な記録を見ると、西暦100年頃です。神殿が破壊されてから30年ほど後のこと、非常に尊敬されるラビと、ユダヤ教の指導者たちから尊敬される他のラビたちによる評議会によって決定されたのは、神はもはや贖罪のいけにえを必要としなくなった、と。つまり、罪の贖罪に、血は必要ない、と。だから、なぜイエスに目を向けるのか？ と。彼らは、祈り、善行、そして律法を学ぶことによって神と正しい関係になれると言われた。今もそうです。これがラビのユダヤ教、ユダヤ教の教えです。正統派ユダヤ人の多くはこれを理解しません。彼らは神殿が再建されるのを心待ちにしています。が、再度、それは何を意味するのか？ しかし、その間、ヨム・キプールの間、正統派ユダヤ人の家庭の多くはカバロットを行います。鶏を取り、頭の上にかざし、祈りを唱えます。まだ続きがありますが、これは終わりの部分で、これがその祈りの終わりです。この方法で終わります。

ー以下引用ー

「この鶏は死へと向かうが、私たちは良い人生へと進み、平和へと向かうことができる。」(引用終わり。)

そして、その鶏は屠殺され、貧しい誰かに与えられます。これを軽んじるつもりはありませんが、私は鶏に注目せざるを得ません。黒人として、、、待って。もし島でこれをしているユダヤ人がいたら、私に全ての鶏を持って来てと言います。ー(笑)ー 私が引き受けます。燻製機に火をつけるよ。本当に。ー(笑)ー

でも、悲しくないですか？ ご存知、鶏はいけにえの代わりとして認められた動物でさえありませんでした。彼らの多くが言うには、それが鶏を使う理由です。敬意を払いたいから。それは意味がありません。血は何のために必要ですか？ もし、あなたが信じないのなら、、、わかりますか？ 愚かなことです。この現代のヨム・キプールには、聖典とは似ても似つかない出来事が他にもいくつかあります。私の希望は、彼らがトーラーを真摯に受け止めるなら、それだけでいいです。トーラーを真摯に受け止めてください。その中にイエスを見ることができるとは限りません。そうかもしれません。神殿が建てられても、彼らのしていることは決して罪を償うものではないからです。しかし、彼らはそれを続けています。希望はこうです。その神殿と、そこでするつもりでいる事柄。私たちはその理由を知っています。覆いが彼らの目を覆い続けているからです。最後にこの対比を見逃してはなりません。思い出してください。アロンが神に近づく方法を示された時、震えながらそうせねばならなかったこと。アロンはそこに2回入らねばならなかった。ついてきていますか？ アロンはすでに、この方法でなければ死ぬと言われていました。多くの指示があり、非常に詳

細です。「どのような方法であれ、わたしのもとへ来てはならない。さもないと、あなたは死ぬ。」しかし、これはキリスト・イエスにあるクリスチャンとして言われていることではありません。イエスによる最終的な贖罪の御業ゆえです。「ヘブル人への手紙」10章16節から19節、神の御言葉を読みます。

ーヘブル 10：16ー

これらの日の後に、わたしが彼らと結ぶ契約はこうである。—主のことば—わたしは、わたしの律法を彼らの心に置き、彼らの思いにこれを書き記す」と言った後で、

ーヘブル 10：17ー

「わたしは、もはや彼らの罪と不法を思い起こさない」と言われるからです。

重要な事実: 「もはや思い起こさない。」その「もはや思い起こさない。」を踏まえて、18節に耳を傾けてください。

ーヘブル 10：18ー

罪と不法が赦される（思い起こさない）ところでは、もう罪のきよめのささげ物はいりません。「もう罪のきよめのささげ物はいりません。」

（ヘブル 10：18参照）それがわかりますか? 19節、

ーヘブル 10：19ー

こういうわけで、兄弟たち。・・・(どのようにそこに近づくのか?)・・・**私たちはイエスの血によって大胆に聖所に入ることができます。**

これがわかりますか? アロンが死なないように緊張していたのとは対照的です。ここで、私たちは大胆に、聖別された大胆さで近づきます。イエスがすべてで、すべてを成し遂げてくださったことを知り、信じる者すべてに与えられる主の贖罪の御業を私たちは確信することができます。ご起立ください。今夜の時間はここまでです。だいぶオーバーしてしまい、申し訳ありません。ご辛抱ありがとうございます。祈りましょう。

愛する天の父よ、あなたの御言葉は驚くべきものです。そして、私たちが本当にこれを理解することができますよう祈ります。私たちはただ、あなたを捜し求めるための時間を取ります。あなたの御言葉の中に含まれているすべての富は尽きることがありません。ですから主よ、あなたの御言葉に惚れ直し、御言葉と御言葉の中にあるものに献身する心を私たちに与えてください。そして、あなたの聖霊の力によって、ただ私たちをご支配ください。あなたが私たちを迎えに来てくださるまで、私たちがより良い下僕でいれるように。そして、あなたがなされたこと、そしてなさり続けてくださるすべてに感謝します。私たちの代わりに流してくださったあなたの血潮に感謝します。キリスト・イエスの力強い御名によって、祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリー・カネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7